

地域連携型経営体育成モデル支援事業の活用例1

地域の産業を取り巻く現状・問題

- ◎ ここ数年で高齢化による離農、農家数の減少が予測。
- 残った農家も、これ以上、農地を引き受けることが困難な状況にあり、地域農業の維持が困難。
- 地域の建設業は、公共事業の減少により、職員数が過剰気味。本業以外でのビジネス展開が必要。

- ◎ 全国的にも有名な特産農産物を生産しており、農業者も生産を拡大したいと考えているが、長期保存に適しておらず、そのままの状態での販売拡大は困難。

- 地域の加工業者においては、大手企業の商品と差別化できる、付加価値の高い商品の開発が課題。

- ◎ おいしい農水産物、野趣溢れる温泉などの観光資源に恵まれているが、交通アクセスが悪いなどの理由により、認知度が低く、来訪する観光客は少ない状況。

- 農業は小規模な高齢農家が多く、生産量からみても大市場には適さない地域。直接消費者と結びつくことで、少量他品目の農産物の有利販売をしたい考え。

本事業の活用パターン

【取組テーマ】

農業・建設業等が連携した農業法人・コントラ組織の設立

(具体的な取組例)

- ◎ 農業法人・コントラ組織設立に向けた検討
 - ・先進事例調査
 - ・設立に向けた法的な手続事項に関する勉強会
 - ・農業法人・コントラ設立に向けた個人財産の取扱や役員報酬、設立までのスケジュールに関する検討
 - ・法人・コントラ組織設立計画の策定

【取組テーマ】

農業・加工業等が連携した地場農産物を使った加工品の開発

(具体的な取組例)

- ◎ 新商品開発に向けた検討
 - ・各種調査(トレンドの把握、バイヤーニーズの収集、先進地視察)
 - ・開発する商品の検討
 - ・開発計画の策定
- ◎ 新商品の試作、検証
 - ・試作品の製造、消費者モニタリング

【取組テーマ】

農漁業・商工観光業者等が連携したツアー商品の開発

(具体的な取組例)

- ◎ ツアー商品開発に向けた検討
 - ・各種調査(トレンドの把握、旅行代理店・バス会社等との意見交換、地域資源調査)
 - ・地域の魅力づくりの検討(昼食メニュー、土産品の検討。クーポン導入の検討)
 - ・商品設計(ツアー内容、広告方法、収支計算等)
- ◎ ドライアルツアーの実施
 - ・公募で募集した参加者によるツアー体験、モニタリング

地域連携型経営体育成モデル支援事業の活用例2

地域の産業を取り巻く現状・問題

- 農漁業女性グループが味噌やジャム、ホッケの開きやイカの一晩干しなどを生産。地域の飲食業者も許可を受け、地場の原材料を使った総菜類を生産。
- それぞれ物産展に出店すると好評。売上上々。
- これらの者は、今後ともできるだけ多くの物産展に出店し、安全・安心でおいしいものを消費者に理解してもらいながら適正価格で販売していきたい考え。
- しかし、それぞれ、本業が多忙なため、繁忙期に物産展に出店することができず、所得向上のチャンスを失っている状況。

- 農水産物、加工品など、おいしい地域の特産品はたくさんあるが、売れない。
- バイヤー、消費者からは、味はよいが、他地域のもの変わらないという評価あり。

本事業の活用パターン

【取組テーマ】

農漁業者、加工業者、飲食店等が連携した、地域特産品の共同販売体制の確立

加工品を物産展等で販売したい等からなる協議会を設立し、1年を通じて、地域の関係者が連携し、それぞれの食を物産展等で販売できる仕組みを構築。

（具体的な取組例）

◎ 共同販売体制の確立に向けた検討

- ・メンバー相互の商品知識の取得
- ・メンバーの本業の繁忙・閑散期を整理し、誰がどの時期に物産展等に参加できるか、1年

を通じてローテーションが組めるか検討

・販売会社の設立の検討

これらの検討などを踏まえ、ビジネスモデルを構築

◎ ビジネスモデルの試行～物産展への参加

【取組テーマ】

地域農水産物、加工品等の特産品ブランドの再構築

（具体的な取組例）

◎ 地域特産品のブランド再構築に向けた検討

- ・外部有識者による既存特産品の評価
- ・それを踏まえての地域特産品づくり・販売戦略の再検討（品種、製造方法、パッケージ、統一ブランド、販売先、PR方法等）
- ・地域ブランド再構築プランを策定

◎ 見直した特産品の試作、検証

試作品の製造、消費者モニタリング